

# つながる力

《No. 28》



24.9.10~12 奄美大島を訪問、

## 奄美からの辺野古埋立て用土砂搬出反対を要請



24.9.10 大和村長に要請書手渡す



24.9.11 瀬戸内町長に要請書手渡す



24.9.12 奄美市で副市長に要請書手渡す



24.9.12 竜郷町長に要請書手渡す

### 《 目 次 》

9.10~12 奄美で、土砂搬出反対を訴える	大谷正穂 阿部悦子	2~3
9.10~12 奄美大島四市町村への要請書		4~5
訃報 うるま市島ぐるみ会議議長 宮城英和さんご逝去		5
奄美会議 8月28日付総理・防衛大臣あて要請書		6
奄美会議 8月29日付奄美大島島内四市町村あて申し入れ		7
辺野古への土砂搬送によるこれ以上の環境破壊は許されない	北上田毅	8~9
9月、奄美大島を訪問して「世界自然遺産の島」の軍事要塞化に衝撃	阿部悦子	10~11
沖縄県議会あて 奄美大島からの土砂調達による特定外来生物の移動を許さないための陳情		12
第1回緊急オンライン学習会—辺野古埋立てに奄美から土砂採取？問題点を明らかにする！—	立田卓也	13
7月11日 防衛・環境省交渉	毛利孝雄	14~15
大軍拡と基地強化にNO！西日本交流集会を呉で開催	新田秀樹	16~17
6月28日 安和桟橋で何が起きた？	原田みき子	18
沖縄からの便り22	浦島悦子	19
いんぷおめいしょん 各地から・土砂全協オンライン学習会の案内		20

写真提供 北上田毅 阿部悦子 立田卓也 松本宣崇 毛利孝雄

# 9.10～12 奄美で、土砂搬出反対を訴える

辺野古土砂全協共同代表 阿部悦子 大谷正穂

台風接近の影響で空模様の不安定ななか、奄美島内の1市2町1村の首長らと面談し、奄美大島からの辺野古土砂搬出反対の「要請書」を手渡すとともに説明してきました。また利用されると思われる採石場や積出し港を見てきました。北上田、阿部、大谷の土砂全協一行に「自然と文化を守る奄美会議」の城村さんが車を出してくださり、最終日は奄美ブロック護憲平和フォーラムの関代表が終日同行してくださいました。

12日の午後は鹿児島県護憲平和フォーラムの磨島さんの手配で、議会開催中の鹿児島県庁を訪れ、塩田県知事あての「要請書」を担当職員に託しました。鹿児島、奄美の皆さんにはお世話になりました。

9月10～12日三日間の行動は以下の通りです。

- ◆9月10日（火）  
大和村役場で村長に要請、大和村内の採石場へ
- ◆9月11日（水） 瀬戸内町内の採石場調査、瀬戸内町役場で町長に要請  
奄美市内戸玉の採石場を調査  
記者会見（大島支庁・記者クラブで奄美・鹿児島・全国紙の新聞、地元テレビ（NHKも）、共同通信が参加）  
北上田さんによる学習会（40人以上参加し盛況）



- ◆9月12日（木） 奄美市役所（議会中で副市長に要請）、龍郷町役場で町長、副町長に要請  
鹿児島市で、鹿児島県庁を訪れ県知事あての要請書提出（担当職員に託す）

各首長とも「現在までのところ防衛省から接触はない」と言われていました。首長として「条例などに反しない」の立場も確認できました。龍郷町の港湾は「龍郷町の管理港湾」で他とは管理者が異なることが分かりました。幾つかの採石場では「がけ崩れ」を起こして土砂を回収しているような場所も見受けられました。

奄美で城村さんから頂いた資料（別掲、首相・防衛大臣あて申し入れ書、島内四市町村あて申し入れ書）を見れば、行政交渉、抗議行動、情宣活動と精力的に取り組まれています。

（「海峡の町」の大谷正穂）

奄美現地では辺野古土砂全協の仲間「自然と文化を守る奄美会議」など地元の団体が、行政交渉や情宣、調査活動などを積み重ねられておられて頭が下がりました。

大谷さんには、最終日の12日午後、お疲れのところ鹿児島県庁に要請行動をしていただき有難かったです。その節は磨島さんにもお世話になりました。

私たちは10日から12日まで、4市町村で防衛省の動きを聞きましたが、「特段ない」と応えておられたにも関わらず、その数日後に調査が入ったと聞き、余りにも急で強引な「調査」だと断じざるを得ません。城村さんには終始お世話になりました。

北上田さんが「今、土砂全協の動きどころ」と位置づけてくださり、各市町村長さんらに対して説得力のある丁寧な説明をしていただき、感謝いたしました。（阿部悦子）（24.9.13）



2021年7月10日、お亡くなりになった元共同代表大津幸男さんの墓前に、お花を供えてきました。

米軍普天間飛行場（沖縄県宮野湾市）の名護市辺野古への移設を巡り、埋め立て資材搬出地などの9都県14の市民団体でつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」（阿部悦子、大谷正穂共同代表）は11日、奄美大島入りし、採石候補地とされる島内4市町村の採石場や港湾を視察。奄美市住用町では住民との意見交換も行った。

## 奄美からの搬出に反対

奄美大島

### 辺野古土砂全協が訴え

2024.9.12 奄美新聞

10日は伊集院幼大和村内町長と面会。▽奄美大島からの埋め立て土砂搬送に



奄美大島からの土砂搬出に反対を表明した辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の代表ら＝11日、奄美市名瀬

▽防衛省による調査箇所

日程が分かれば速やかに公表すること▽防衛省へ地域住民へ説明の場を持ち、意見を聞くよう求めることなどを求める要請書を手渡した。伊集院村長からは新たな採石場の計画もあったが阻止してきており、今後でも許可するつもりはない、鎌田町長からは「辺野古移設には賛成の立場」との発言があったと明かした。

一行は12日に龍郷町長、奄美市副市長に面会し、同じ内容の要請書を提出。その後県庁を訪問し、知事宛ての要請書を提出する予定。



辺野古土砂全協は9月10～12日、阿部・大谷両共同代表と北上田顧問が奄美大島を訪れ、採石予定地とされる大和村（要請日9月19日）・龍郷町・瀬戸内町（ともに同11日）・奄美市（同12日）の首長に、以下の要請書を直接手渡しするとともに、奄美大島からの土砂調達による特定外来生物の移動を許さないための要請を行ないました。

また、奄美からの帰途、鹿児島県知事に対しても9月12日、同趣旨の要請書を提出しました。

2024年9月12日

鹿児島県奄美市長 安田荘平様

### 辺野古新基地建設事業における、 奄美大島からの土砂調達による特定外来生物の移動を許さないための要請

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

共同代表 阿部悦子（環瀬戸内海会議）

大谷正穂（辺野古に土砂を送らせない！山口の声）

（役員名省略）

私ども「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」（以下、「土砂全協」）は2015年、「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」を合言葉に、西日本各地から辺野古新基地建設の埋立用土砂を調達する計画に反対するために、採取予定地の住民・市民団体によって発足した全国組織です。特に、外来生物の沖縄島への持込等に係る生物多様性の問題等を中心課題として活動を続けてきました。

鹿児島県は8月21日、政府が辺野古新基地建設に使用する埋立土砂確保のため、奄美大島で早ければ9月にも現地調査を実施すると発表しました。すでに防衛省職員が、8月19日～20日、鹿児島県と奄美大島の市町村を訪問し、調査計画を説明したそうです。奄美市にも防衛局職員が来て、市内の2ヶ所の採石場と土砂搬出港で特定外来生物の調査を行うと報道されました。

ご承知のように、沖縄県には特定外来生物の侵入を阻止するために、「公有水面埋立事業における埋立て用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例（以下、「土砂条例」）が制定されています。2016年当時、那覇空港滑走路増設埋立事業では、奄美大島からの石材（12.5万m<sup>3</sup>）が搬送され、この土砂条例が初めて適用されました（その際には、申請書では「特定外来生物は確認されていない」とされていましたが、条例に基づき沖縄県が立入調査をしたところ、3ヶ所の採石場と3ヶ所の搬出港の全てで特定外来生物（ハイイロゴケグモ、オオキンケイギク）が確認され、沖縄県は石材の洗浄等の防除対策を指示した経過があります）。

また、鹿児島県の「指定外来動植物による鹿児島県の生態系に係る被害の防止に関する条例」でも、「指定外来動植物により生態系に係る著しい被害が生じるおそれがある場合、---国、市町村及び県民等と連携し、当該指定外来動植物の防除その他必要な措置を講ずるものとする」（第13条）と定められています。市町村としての対応も求められているのです。

世界自然遺産としての奄美大島の生態系を守り、同時に、辺野古大浦湾の環境破壊を許さないために、下記のとおり要請します。

## 記

1. 辺野古新基地建設事業については、2014年以降、翁長前知事、玉城知事が反対を表明し、2019年の県民投票でも7割を超える県民が反対していることが明確となった。今も、連日、キャンプシュワブのゲート前や大浦湾の海上で、県民らが必死の抗議行動を続けている。

奄美大島から辺野古・埋立土砂を搬送することは、沖縄県民の抗議の声を無視して戦争のための軍事基地建設に協力するものであり、認められない。市長として、反対の意思を表明すること。

2. 防衛省による奄美市での調査箇所（採石場、搬出港）、調査日程が分れば速やかに公表すること。

また、防衛省の調査終了後、報告書等の提出を求め、市長としてその内容を検討し、公表すること。

3. 防衛省が奄美市の採石場の土砂を辺野古埋立に使用すると決める前に、採石場・搬出港周辺住民への説明の場を持つよう求めること。

4. 鹿児島県の「指定外来動植物による鹿児島島の生態系に係る被害の防止に関する条例」に基づく「外来種被害予防3原則」では、「既に野外にいる外来種を他地域に拡げない」と強調している。この立場から、沖縄県が土砂条令に基づき奄美市の採石場や搬出港に立入調査を実施する場合、奄美市も沖縄県の調査に協力・連携すること。

5. 今回、代執行で国が沖縄県に代わって承認した辺野古・設計変更申請書では、奄美大島からは、1,190万 $\text{m}^3$ もの土砂調達が可能とされている。これは、大型ダンプトラック約250万台もの膨大な量である。奄美大島では現在でも、奄美市住用町をはじめ、採石場周辺の粉じん・騒音や赤土流出・海の汚濁等の被害が広がっている。辺野古への埋立土砂搬送が始まれば、さらに深刻な事態となる。

奄美市として、これ以上の採石行為による環境破壊を許さないための対策を講じること。

以上

## 訃 報

本年5月25～27日、辺野古土砂全協第11回総会の沖縄県うるま市開催にご協力いただいた、宮城秀和さん（うるま市島ぐるみ会議事務局長）が9月27日、病氣療養中のところお亡くなりになりました。辺野古土砂全協では、以下の弔電を墓前に届けさせていただきました。

宮城英和さま

突然の訃報に接して言葉もありません。長く沖縄の平和運動の中心を担われ、まごころと力強くも美しいその歌声で多くの人を勇気づけて来られました。私は一度お尋ねしたことがありました。「うるま市のみなさんのご活躍は素晴らしいのですが、事務局の宮城さんは大変でしょう」と。その時に宮城さんから返ってきたのは、「私は仲間がいとおいしいのです」という一言でした。忘れることが出来ません。

今年5月うるま市での土砂全協の総会ではお目にかかることは叶いませんでしたが、それまでの過程で沢山のお心のこもったお働きもいただきました。ほんとうに、有難うございました。私たち土砂全協も、宮城さんのお姿を胸に、辺野古に土砂を送らせない運動にこれからも邁進していきたいと思っております。ご冥福をお祈りいたします。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会共同代表 阿部悦子 大谷正穂

2024年8月28日

内閣総理大臣 岸田 文雄 様  
防衛大臣 木原 稔 様

奄美ブロック護憲平和フォーラム・代表 関 誠之  
自然と文化を守る奄美会議・代表 藺 博明

## 辺野古・米軍新基地づくりのために、奄美大島から土砂を搬出しないこと

奄美大島・徳之島が世界自然遺産登録を果し、奄美群島における生物多様性の環境が世界的評価を受けました。群島民はそのすばらしい自然の恩恵を受けることに感謝を抱いています。また、各自自治体においては、島民の自然保護精神の涵養に努めているところです。

さて、沖縄防衛局が、辺野古米軍新基地づくり埋立て用、石材の調達のために、奄美大島の採石場を現地調査する計画を説明するために来島し、当該自治体長と面談されたとの報道がありました。

ところで、政府が米軍普天間飛行場の代替え施設として、辺野古沖を埋め立てて新基地をつくる提案をした当時、沖縄県民は、「これ以上の基地負担は御免」と反対の声を上げました。その後2010年の民主党政権時には、沖縄県外・徳之島案が浮上りました。その時、奄美群島では官民一致で『米軍基地・移設反対』で、火だるまになって移設阻止に立ち上がりました。こういう経緯のある米軍新基地づくりですので、埋め立て工事の中止を求めます。

先の国による侵略戦争の敗北の結果、沖縄と奄美は米軍の占領下にありました。日本復帰後も在日米軍基地が集中する沖縄は、米軍に強制収容された先祖伝来の土地返還を求め続けています。もちろん沖縄県民は、「辺野古の新基地づくり」には反対です。

「県民投票」、幾度もの「国政選挙」で「辺野古新基地反対」の民意が示されているにも関わらず、政府の植民地的な圧政に、もがいています。

沖縄県民と同胞である奄美群島民は、沖縄の現状を救うべき手を差し伸べる使命があります。徳之島に造る基地はNOで、辺野古への基地建設の協力はYESと言えますか。「辺野古埋立て用の土砂の運び出し」に反対を唱えます。

今回、奄美の土砂投げ入れを計画している大浦湾地区の海底は、防衛局も建設当初からマヨネーズ状軟弱地盤と承知の上で工事を進めています。7万本の杭を打って軍用機の滑走路を造るという、膨大な税金投入を見込むゼネコンありきの工事です。12年先の完成予定後も地盤沈下が懸念されています。世界自然遺産の島・奄美大地の土砂は使わないで下さい。

アメリカ(米軍)の東アジアにおける覇権を堅持させるために、日本政府が「台湾有事」を喧伝して、南西諸島に自衛隊基地を配備し、ミサイル部隊までも導入して軍事要塞化をすすめています。この地域での紛争勃発の怖れを高める「辺野古新基地」への協力はできません。沖縄県民と同じように、「ヌチド・タカラ(命ど宝)」です。命を脅かす戦争のための軍事基地づくりに奄美の土砂を一粒たりとも使わないで下さい。

## 記

奄美からの土砂搬出計画をやめ、米軍新基地建設を早急に断念するよう求めます。

辺野古土砂全協の加盟団体、自然と文化を守る奄美会議（奄美会議）と奄美ブロック護憲平和フォーラムは8月29日、地元の団体の立場から奄美大島島内4市町村（奄美市・瀬戸内町・龍郷町・大和村）に、以下のような要請を行ないました。同時に、政府に対しても同じ趣旨で申し入れを行っています。前6頁の申し入れ書を参照ください。

2024年8月29日

瀬戸内町長 鎌田 愛人 様

奄美ブロック護憲平和フォーラム・代表 関 誠之  
自然と文化を守る奄美会議・代表 藺 博明

### 瀬戸内町から辺野古米軍新基地づくりに要する土砂搬出をさせないこと

奄美大島・徳之島が世界自然遺産登録を果し、奄美群島における生物多様性の環境が世界的評価を受けました。群島民はそのすばらしい自然の恩恵を受けることに感謝を抱いています。また、各自治体においても、島民の自然保護精神の涵養に努めていることに感謝申し上げます。

さて、沖縄防衛局が、辺野古米軍新基地づくり埋立て用、石材の調達のために、奄美大島の採石場を現地調査する計画を説明するために来島し、当該自治体長と面談されたとの報道がありました。

ところで、米軍普天間飛行場の代替施設として、辺野古沖を埋め立てて新基地をつくる案が日本政府から出された時、沖縄県民は、「これ以上の基地負担は御免」と反対の声を上げました。その後2010年の民主党政権時には、沖縄県外・徳之島案が浮上しました。その当時、奄美群島民は「米軍基地・移設反対」で、火だるまになって移設阻止に立ち上がりました。こういう経緯のある米軍新基地づくりですので、埋め立て工事の中止を求めます。

戦後、米軍の占領下にあった同胞、沖縄と奄美。沖縄では「県民投票」、幾度もの「国政選挙」で「辺野古新基地反対」の民意が示されているにも関わらず、日本政府の植民地的な圧政に、もがいている現状に、救いの手を差し伸べるのが奄美群島民の使命ではありませんか。徳之島に造る基地はNOで、辺野古への基地建設の協力はYESと言えますか。「辺野古埋立て用の土砂の運び出し」に反対の意を唱えて下さい。

今回、奄美の土砂投げ入れを計画している大浦湾地区の海底は、建設当初からマヨネーズ状軟弱地盤と判明していましたが、7万1千本の杭を打って滑走路を造るという膨大な税金投入が見込まれるゼネコンありきの工事です。12年先の完成予定後も地盤沈下が懸念されています。世界自然遺産の島・奄美大地の土砂は使わせないでください。

アメリカ（米軍）の東アジアにおける覇権を堅持させるため、また日本政府が「台湾有事」を想定して、南西諸島に自衛隊基地を配備し、ミサイル部隊までも導入して軍事要塞化をすすめている現状において、この地域の紛争勃発の可能性を高める「辺野古新基地」への協力は要りません。沖縄県民と同じように、「ヌチド・タカラ（命ど宝）」です。命を脅かす戦争のための軍事基地づくりに奄美の土砂を一粒たりとも使わせないで下さい。

### 記

瀬戸内町を含む、奄美群島からの土砂搬出をさせないよう国に求めること

# ＜奄美大島現地視察報告＞

## 辺野古への土砂搬送によるこれ以上の環境破壊は許されない

**●奄美大島の採石場と4市町村を訪問**

沖縄防衛局は、本年8月中旬、鹿児島県と奄美大島の4市町村を訪れ、辺野古埋立土砂調達のために、9月にも、奄美大島の採石場と土砂搬出港で特定外来生物の調査に入ると通知した。防衛局は今まで、「土砂の調達地は未だ決まっていない」と逃げ続けてきたが、奄美大島からの土砂調達が行われることがほぼ確実となった（奄美大島からは1,190万<sup>3</sup>m。 (ダンプトラック約250万台)もの土砂調達が可能とされている)。

こうした動きを受け、土砂全協は9月10日～12日、阿部・大谷共同代表と北上田の3名が奄美大島で現地視察を行った。イタジイの森に、まるで崖崩れをさせたような荒っぽい採石場の実態には驚いた。

9月10日は、龍郷町の丸大産業等の採石場を見た後、大和村に向かい、村長さんへの要請。その後、大和採石の採石場と恩勝港をまわった。11日は、瀬戸内町の緑原採石の採石場、古仁屋港視察と、瀬戸内町長への要請。そして、奄美市住用町の中部採石の採石場と2ヶ所の搬出港をまわった。夕刻の記者会見には10数社が参加。夜は、自然と文化を守る奄美会議と土砂全協共催の学習会で、辺野古の現状と、奄美大島からの土砂調達問題について報告した。そして12日は、奄美市副市長への要請の後、龍郷町長への要請と採石場を見て、3日間の行動を終えた（大谷共同代表が帰途、鹿児島県庁に行き、担当者へ鹿児島県知事宛の要請書を提出した）。

**●今回の調査は、**  
**沖縄県への土砂条例の届出のため**  
 辺野古新基地建設事業では、当初、埋立土砂の

7割ほどは県外から調達するとされていた。しかし、設計変更申請書では、九州4県からも土砂調達が可能としているものの、「埋立土砂は沖縄県内で調達可能」として、沖縄南部地区を中心に、ほとんどを沖縄県内で調達する計画となった。

しかし、沖縄南部地区の土砂には戦没者の遺骨が混じっているということで反対の声が高まり、やむを得ず、奄美大島からの土砂調達を中心とする計画に変更せざるを得なくなったのだ。

沖縄県には、県外から土砂、石材等の埋立用材を調達する場合、特定外来生物の侵入を防止するための「土砂条例」がある。事業者は、特定外来生物についての調査を行い、土砂搬入予定日の90日前までに県に届け出なければならない。県は、現地立入調査を行い、特定外来生物が見つければ、その防除策の実施や、使用の中止を勧告することができる。

奄美大島での今回の特定外来生物の調査は、土砂条例の届出のための作業が具体的に始まったことを意味している。

**●石材とは異なり、土砂は洗浄できず、特定外来生物の駆除ができない**

土砂条例は、2016年当時、那覇空港滑走路増設事業で奄美大島から石材を調達する際に初めて適用された。その際、事業者の届出書には、「特定外来生物は確認されていない」と記載されていたが、沖縄県が立入調査をしたところ、採石場と搬出港全てでハイイロゴケグモ等の特定外来生物が確認された。そのため、沖縄県は、石材をダンプトラックに積んだ状態で120秒間の洗浄等を指示した。

しかし、今回は石材ではなく、土砂なので洗浄という方法はとれない。現状では、きちんと調査



すれば特定外来生物は必ず見つかるので、沖縄県は使用の中止を勧告する他ない。その時点で、辺野古新基地建設事業は頓挫する。

### ●鹿児島県知事や地元市町村長の対応

鹿児島県知事は、奄美大島から辺野古埋立土砂を調達するという計画について、「県として反対することではない」とコメントした。今回、私たちが面談した奄美大島の4市町村長（奄美市は副市長）も、「辺野古移設には賛成」、「法令に違反しない限り問題はない」という首長が多かった。

私たちは、「今でも奄美大島では採石場による環境破壊が問題となっている。今回の辺野古への土砂搬送は、最大でダンプトラック約250万台という膨大な量となり、奄美の環境は壊滅的に破壊される。辺野古に賛成か、反対かではなく、奄美の住民と自然を守るという立場で考えてほしい」と訴えた。

ただ、大和村長は、「以前、新しい採石場の計画があり、地元住民も賛成したが、村は、これ以上の採石場は認めないとして反対した」と言われた。また、全ての市町村長は、「地元で丁寧に説明してほしい」と要請したが、防衛局は、「地域住民への説明は予定していない」と拒否している。

なお、各市町村長は、奄美大島から辺野古への土砂搬送の「第三者」ではなく、「当事者」である。搬出港は、県や各市町村が所管しており、土砂搬出船の岸壁使用許可や仮置きのための荷捌地使用許可の権限を持っている。港湾施設使用の許可基準には、「環境を悪化させるおそれがないこと」等があり、多数のダンプトラックが搬出港に土砂を搬送することによる環境破壊が懸念されれば、港湾使用許可を出すべきではないのだ。

### ●防衛局は、奄美大島から調達するのは、「土砂ではなく、石材」と言い始めた

防衛局は最近になって、奄美大島から調達するのは、「土砂ではなく、石材」と言い始めた。本年4月以降、「土砂」と報道されていたのを否定もせず、7月の土砂全協も共催した防衛省交渉でも、

奄美からの「土砂」ということで話し合ってきたのだから、今になって「石材」というのは納得できない。防衛局は、「岩ズリ」を「石材」とごまかしている可能性がある。

そもそも石材については、県外からの調達は想定されていなかったはずである。

県は、設計変更申請書の審査の過程で、防衛局に対して、本事業で必要となる石材の調達先について質問したが、防衛局は、「(石材について)現時点で県外からの調達は考えておりません」と文書回答している(2021年1月11日)。また、設計変更申請書に添付された環境保全図書の「資材搬入計画」でも、「(石材について)沖縄県内において、本事業への必要量は確保できる」と記載している。

石材を奄美大島から調達するというのであれば、土砂条例の手続きの前に、埋立承認の際の留意事項に基づき、環境保全図書の変更について知事の承認を得なければならない。

### ●奄美大島からの 辺野古への土砂搬送を中止させよう

今回の奄美大島訪問で最も印象に残ったのは、9月11日、住用町を訪問した際のことである。我々が来るというので地元の区長さんらが待っておられた。そして、多くの写真や資料を次々と示して、40年近くもの、採石場の騒音や粉じん、赤土流出等の被害の実態について溢れるような言葉で訴えられた。

記者会見の時間が迫っており、十分、お話しを伺うことができなかつたことが心残りではない。

土砂全協は、県外からの辺野古埋立土砂調達に反対し、採石場による環境破壊に抗して闘い続けている各地の住民との連携・支援を行うことに全力をあげて取り組んでいきたい。(24.10.2)



## 9 月、奄美大島を訪問して

# 「世界自然遺産の島」の軍事要塞化に衝撃！

辺野古土砂全協共同代表 阿部悦子

### ●奄美大島は「土砂全協」発祥の地

5 月に防衛省が辺野古埋立てのための土砂搬出を計画しているというニュースを聞いて以来、気になっていた奄美訪問は 9 月になってしまいました。今回 3 日間の逗留でしたが、私からは「軍事要塞化が進む奄美大島」について報告します。



奄美市住用町で

そもそも、「土砂全協」は奄美大島の人々と環瀬戸内海会議がつながって 2015 年に奄美大島で発足集会を開いた経緯があります。4 年後の 2019 年には第 6 回総会を開催、今は亡き元共同代表大津幸夫さんの元で盛大に行われました。土砂搬出地はもちろん、当時開設したばかりの陸自の瀬戸内分屯地の視察も行いました。この年に奄美駐屯地も開設されて今年で 5 年を迎えています。

### ●「すさまじい」瀬戸内町の軍事要塞化

この 5 年で奄美大島は軍事要塞化が進み、島の印象も風景も一変したと感じました。米国との合同軍事演習が頻繁になされ、島の南側、加計呂麻島を望む古仁屋港を有する瀬戸内町では、これまでに大型ミサイル弾薬庫 5 棟（トンネル式、1~3

棟は、一棟千㎡＝巾 10m×奥行 100m、4・5 棟からは奥行 250m) に加えて新たに 3 棟の増設が決まり、古仁屋港・須手地区では「自衛隊艦艇の拠点化」を進めるとして、南西地域防衛のための隊庁舎整備計画までも予算化されました。

瀬戸内分屯地には既に地対艦ミサイル部隊が配置されていますが、拡張のための土地買収の費用も含めて次々と巨額の「防衛費」が積み込まれています。瀬戸内町長に土砂搬出問題での申し入れをしたとき、町長室の壁一面に貼ってあった自衛隊関連の写真やカレンダーにも衝撃を受けました。テレビの報道によると、自衛隊員によって地域の飲食店が繁盛して喜ぶ声に続き、瀬戸内小学校校長が「減少する生徒数が自衛隊員の子どもで補われ助かっている」と歓迎の声を挙げていました。(泣)。



瀬戸内町長室で

### ●奄美市上空でも

日常的に「オスプレイ」の飛行訓練が・・・

奄美大島の中心、奄美市にも地対空ミサイル基地がありますが、最近では近傍の名瀬港が民間港を軍事利用する「特定利用港湾」に指定され、10 月 23 日から 11 月 1 日まで大規模な日米共同の

実戦訓練（キーンソード・25）が行われることも発表されました。

島を案内してくださった城村さんの言葉に驚きました。夜間、オスプレイが集落の上を低空で何回も旋回するというのです。頻繁に沖縄から飛来して来るということで、住民は轟音に悩まされ、墜落への不安も測り知れません。

そこで、今年6月議会には奄美市議会に「米軍機オスプレイの奄美群島上空での飛行訓練、禁止を求める陳情書」を「奄美の自然と文化を守る群民会議」が提出されましたが、賛成少数（賛成3，反対18）で否決されました。陳情書には「島の密集した人家の上空を危険高度 60mの低空で飛行訓練する欠陥機を黙認してよいものでしょうか。島民の命を守るために、『せめて海上を飛行してもらおう』ことを、米軍と防衛省に提言していただけますか」とあるにも関わらず、です。



奄美市役所庁舎入口の自衛官募集の看板

そういう議会状況の中で、土砂全協が「土砂搬出反対」を奄美市長に申し入れを行ったこととなります。奄美市役所庁舎の入り口に「自衛隊員募集」の大看板が際立っていたことにも驚きました。

●その奄美に大型トラック 250 万台もの土砂が辺野古埋立てのために搬出される計画が持ち上がったのです。どこまでこの島を踏みつけ人々の生活を壊すのでしょうか！「本土」に住む私たちはもっとこの現状を知り、つながり、戦争を止めて行かなければ！と強く思います。



瀬戸内町緑原採石場

●このような奄美大島の軍事要塞化の背景には、ミサイル基地の新設など、沖縄・奄美を中心に始められた新たな軍事態勢—「対中国戦争態勢」が西日本各地（九州・中国・四国、京都にまで）に拡大している問題があります。ミサイル部隊の配備、弾薬庫の建設、基地の新設・拡張、「特定利用空港・港湾」という名の民間施設の軍事拠点化などです。一方で反対する各地の運動団体が広く連携する動きも確実に始まっています。



奄美市役所の蘇鉄

●奄美は「蘇鉄（ソテツ）」の島」ともいえるほど、幹線道路など至る所に蘇鉄が植えられています。島民が貧しかった過去にはこの蘇鉄を粉にしてデンプンを取り、食用にして人々の飢えを救ったとも言われる植物です。その蘇鉄の「全滅状態」は、現在の奄美大島の「今」を嘆き、警鐘を鳴らしているように思えて仕方ありません。（2024. 10. 2）

## 沖縄県議会 9 月定例会に提出した陳情書

沖縄県議会議長 様

2024 年 9 月 30 日

団体名 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

共同代表 阿部 悦子 大谷 正穂

住所・連絡先 〒700-0973 岡山市北区下中野 318-114 松本宣崇方

### 辺野古新基地建設事業における奄美大島からの土砂調達による 特定外来生物の移動を許さないための陳情

私たちは辺野古新基地建設事業用に狙われる土砂搬出候補地の市民及び団体のネットワークであり、沖縄県・辺野古と土砂搬出地での環境破壊が進むことを強く危惧し、これまでも貴議会に陳情を提出してきました。

沖縄県民や国民が反対の民意を示し続けている辺野古新基地建設事業に使用する埋立土砂確保のため、政府は奄美大島で現地調査を実施すると鹿児島県に通知しました。代執行で国が沖縄県に代わって承認した辺野古・設計変更申請書では、奄美大島からは、1,190 万 $m^3$ もの土砂調達が可能とされています。これまで防衛省は、土砂調達について「具体的な調達先はまだ決まっていない」としてきましたが、奄美大島が調達先の一つになる可能性がほぼ確実に上がったといえます。

調査では、採石場や土砂積出港に特定外来生物が生存していないかなどを調べるとのことです。環境省奄美野生生物保護センターの HP によれば、奄美大島では特定外来生物のニューギニアヤリガタリクウズムシ、ハイイロゴケグモ、ツルヒヨドリ、オオキンケイギク、ナガエツルノゲイトウ、ボタンウキクサ、オオフサモが確認されています。これら動植物の生息状況は、これからの秋冬の調査では確認できない恐れがあり、調達計画が安易に立てられて、沖縄県に外来生物を持ち込むことにつながるのではないかと危惧するところです。また、外来生物対策として大量の土砂に洗浄や熱処理を行うことができないことは明らかです。

また、環境省奄美野生生物保護センターは、特定外来生物に指定されていない侵略的外来生物としてセイタカアワダチソウ、アメリカハマグルマ、メリケントキンソウなどを確認しています。「公有水面埋め立て事業における埋め立て用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例」は、特定外来生物しか対象としていないため、これら侵略的外来生物による被害の防止には規制の強化が必要です。生態系の被害防止の観点からは一刻の猶予も許されません。

以上のことから、次のとおり要請します。

#### 記

1. 「公有水面埋め立て事業における埋め立て用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例」にもとづき、沖縄県独自に奄美現地調査を入念に行うとともに、仮に奄美が土砂採取地になった場合に厳格な事前審査が行えるよう、県当局に働きかけること
2. 「公有水面埋め立て事業における埋め立て用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例」の規制対象に、特定外来生物に指定されていない侵略的外来生物を知事が指定できるよう条例改正を行うこと

以上

\* 沖縄県知事にも同日付、同じ主旨内容の要請書を提出しました。

# 第1回緊急オンライン学習会

## — 辺野古埋立に奄美から土砂採取？問題点を明らかにする！ —

辺野古土砂全協事務局次長 立田卓也



チする～こうやったら止められる、このように訴えていく～の姿には、驚かされることしきりだ。

ただ、民生用とはいえ、那覇空港の拡張で奄美大島からの石材搬出に伴う現地の環境破壊を、私たちはどこまで認識できていたのだろうか。私たちの負う責めを自覚しつつ、もうこれ以上、沖縄を「兄弟島」と言ってくれる奄美の自然破壊に手を貸したくない。

7月の防衛省交渉で、当方の問い質しに、返答に窮して官僚が涙を流した姿を動画で視聴したが、あれはいったい何だったのだろう。「法治主義」に自ら穴を空け矛盾を重ね、司法の場では、事業の具体的な問題点を裁判所で審理させない～県も住民も原告適格なしと逃げる～ほどに劣化させておいて、強行し続けてきた辺野古新基地建設工事のその先に、安和栈橋での死傷事故が起きたのだ。南部からの土砂が採れないと判断し、採取地が奄美大島に変更になって今、あの涙はいったい何なのかと疑う。一体誰が本当に悔しい思いをしているのか、と思う。

基地建設の側面に、都市や資本家が地方の資源を搾取し、そこに暮らす人々の生存を脅かすという、入植主義や公害事件の姿を見る。資本とそれをフェアに調整すべき行政が人々の決定権を奪う。そこに基地を置くことは、もし有事に被害を被っても構わない存在だとの差別がまずある。奄美も元々は琉球であったから、ヤマトから見れば差別の対象だろう。

私の記憶が間違いでなければ、豊島の産廃不法投棄事件で住民を支援した中坊公平弁護士が後輩たちに、住民を救う方法を憲法の中から探し出せ、というような言葉があった。私たち市民こそが沖縄や奄美の人の「基本的人権の尊重」の視点で、憲法を解釈していき、行政が戦争の準備を許してしまっている法律や条例、それこそ閣議決定を越えていく。

そんな闘い方を土砂全協もずっとしてきたし、末田さんや北上田さんの専門的な知見からのアプロー

**代執行でも破綻する辺野古新基地建設**

- ・ボーリング調査を拒否していたB27地点で調査が始まったー 設計見直しは必ず
- ・奄美大島からの埋立土砂調達問題についてー 9.10～9.12 現地視察報告

2024.9.28

**北上田 毅**  
(沖縄平和市民連絡会)

**沖縄県は 特定外来生物以外の対策へ**

- ・2019年9月議会全会一致で、希少野生動植物保護条例を制定
- ・意図的な非「特定外来生物」の持込みを規制

	特定外来生物	左記以外の 侵略的外来生物
意図的持込み	外来生物法	希少野生動植物保護条例
非意図的持込み	土砂条例	

- ・2019年12月対県交渉 土砂条例改正の必要性は認めたものの…

現地とは連帯することでしか関われない私たち市民が、豊島の闘いの中であからさまにされた「行政の無謬性」(政府や官僚組織には無意識のうちに理論や判断に間違いがないと信じてしまう)を、そこに暮らして生きていく様や運動を通して、気づかせ、彼らに本当の涙を流してもらいたい。(24. 10. 5)

### 【追記】

ご視聴希望される方は、学習会の動画を提供します。ご連絡ください。ぜひご覧いただき、この状況を共有し広めましょう。

# 7月11日 防衛・環境省交渉

首都圏グループ 毛利孝雄



7月11日国会議員会館内で防衛省・環境省交渉 写真・北上田毅さん

代執行強行から半年余の7月、辺野古工事の現状を問う政府交渉を、「止めよう！辺野古埋立て国会包囲実行委員会」「平和をつくり出す宗教者ネット」「土砂全協」の共催で行った。参加者は100名を超え、国会は閉会中だったが、近藤昭一、伊波洋一、屋良朝博、山岸一生議員らが参加された。

直前に次々と明らかになった女性性暴力事件、安和棧橋での死傷事故を受け、交渉冒頭で黙祷と政府宛抗議文を手交、急遽安和事故に関する質問が追加された。いくつか特徴点を備忘録として列記する。

第1に、防衛省の約束反故。交渉を実のあるものにするため、質問事項への事前回答を約束したにもかかわらず、前日夕刻になって当日持参すると言い出した。遅れた分少しは内容に踏み込むのかと思いきや、当日回答は事実上の交渉拒否、主権者の知る権利を冒瀆するものだ。

第2に、安和死傷事故関連では、防衛省担当職員が声を詰まらせ涙ぐむ場面があった。進行担当だった私は、一旦外に出てもらい落ち着いたら戻ってもらうことも考えたが、泣きたいのはこっちの方だと思い直し、「5年半に及ぶ市民の抗議活動をどのように考えているか」を質した。この時は

「誠に遺憾」「詳細は確認中」「適切に対応」と述べるだけだったが、その後の経緯からは、事故の背景に防衛局による搬入を急がせる指示があったこと、市民らの抗議活動に対しては「民間人に対して危険・危害を及ぼす妨害行為」

(防衛局の県への要請)と位置づけていることが明らかとなっている。(編集部注：6月28日の安和棧橋での痛ましい事故の経緯については、19ページ掲載の原田みき子さんの報告を参照されたい)

第3に、6.23 慰霊の日の岸田(前)首相発言で注目された南部遺骨土砂問題については、「真摯に受け止め、適切に事業を進める」「今後の土砂の調達先は決まっていない」と従来の主張が繰り返された。しかし、1ヶ月後の8月には、奄美大島からの土砂調達に向けて、関係自治体などに計画について説明し、2025年中にも沖縄県に搬入する方針であることが明らかになっている。沖縄県土砂条例に関連する特定外来種の混入対策はどうなるのか、埋立側の辺野古のみならず、実現すれば大量の土砂が搬出される奄美大島の環境破壊も深刻だ。

さらに、地盤改良が不可能な深さまで軟弱地盤が存在するB27地点周辺では、9月に入ってあれ

ほど頑なに拒否していたボーリング土質調査の動きが確認されている。

第4に、防衛省・環境省の同席のもとに、辺野古大浦湾埋立がいかにかに生物多様性国家戦略に反するかを追及した。防衛省は『生物多様性国家戦略2023-2030』に基づく…取り組みについては、主に環境省において検討されていくものと承知しており、防衛省としてお答えする立場にありません」とし、環境省は「環境配慮については、…事業者である防衛省において、適切に行われるものと認識しています」と繰り返した。つまり、生物多様性国家戦略を「各省庁が行う関係施策の基本とする」と定めてはあっても、理念として掲げたのみで検証するプロセスは存在しないという無責任体制なのだ。

こうした政府の現状を変え、国際社会が到達した「生物多様性条約」を実体化させることは、主権者である私たちや自治体にも課せられた責務といえる。注目したいのは「生物多様性国家戦略2023-2030」が、仲井眞知事による「埋立承認」以後に新たに決定された国家戦略(国際公約)

だという点だ。沖縄県は当該自治体として埋立承認の「再撤回」を含め、あらゆる選択肢を駆使し辺野古・大浦湾を守り抜いてほしい。それが国際社会に連帯する道であることに確信を持ちたいと思う。私たちも沖縄の民意、そして玉城デニー知



7月11日夜、北上田毅さん湯浅一郎さん講演集会  
(東京都文京区民センター) 写真・毛利孝雄

事とともに歩む決意を新たにしたい。

政府交渉終了後は会場を移し、北上田さん・湯浅一郎さんによる講演集会が持たれた。(24.10.4)

政府交渉と講演集会の詳細は、下記 YouTube 映像で確認できます。

※ 「代執行」下の辺野古工事を問う政府交渉と院内集会

<https://www.youtube.com/watch?v=Z6P8wf2jELA>

※ 不当な「代執行」による大浦湾の埋め立てを許さない！北上田毅さん湯浅一郎さん講演集会

<https://www.youtube.com/watch?v=651p-16G09c>



## 会員の皆様、ご支援くださる皆様にたってのお願い

辺野古土砂全協は、個人・団体会費とご支援下さる皆様のカンパに支えられて活動してきました。

皆様方のこれまでのご理解ご支援に深く感謝申し上げます。とはいえ、土砂全協資金状況は2023年度決算書に見るごとく、極めて逼迫しています。またそろ明らかになった奄美からの土砂採取を前に、多大な資金は必至です。これまでに増してのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

**年会費 団体：10,000円 個人：3,000円**

— 郵便振替口座 —

番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

# 大軍拡と基地強化に NO！ 西日本交流集会を呉で開催

ピースリンク広島・呉・岩国 世話人 新田秀樹

9月21日、22日、呉市で「知り・つながり・止める一大軍拡と基地強化に NO！ 西日本連帯交流集会」をピースリンク、広島と沖縄をむすぶドゥシグラーとノーモア沖縄戦 命どう宝の会が共催して開催した。基地強化の現地など西日本各地をはじめ地元から二日間でのべ約150人が参加した。



この流れは琉球弧の島々に自衛隊駐屯地、ミサイル部隊や弾薬庫の建設が進む中、沖縄が戦場にされるとの危機感から2021年に「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」が発足し、集会を重ねてきた。その中の発言で事務局長の新垣邦雄さんは「沖縄を再び犠牲にするな」の声に日本全体で軍拡が進む中「沖縄だけの問題ではないのでは」と違和感を覚えたという。呉集会の前には今年4月の愛媛に続き、8月には沖縄で西日本をつなぐ交流集会がもたれた。

急速に進む日本の軍拡、とりわけ呉では3月に防衛省は「多機能な複合防衛拠点」建設のため、操業を停止した日鉄呉跡地130haを取得する意向を発表している。現在でも自衛隊艦艇数で最大の海上自衛隊呉基地を抱えているが、基地面積は約2.5倍になり戦争拠点になろうとしている。それに対して、呉市民は「日鉄呉跡地問題を考える会」を4月に発足させ、共同代表でもあるピースリンク呉世話人の西岡由紀夫さんが開会挨拶を兼ね、現状を報告した。



ノーモア沖縄戦命どう宝の会共同代表の具志堅隆松さんは沖縄戦の遺骨収集を続ける中、「これ以上遺骨を生み出してはいけない」と基調ともいえる熱い思いを語った。改めて戦争を知る世代が減り、戦争のリアルが失われる中、本当に重い話だった。

そして、全国の基地を歩き映像を撮りためている横浜の木元茂夫さんがコンパクトにまとめた映像で全国の動きを紹介した。木元さんは地元の米陸軍横浜ノースドックの動きや横須賀の日米艦船の動きの監視も続けている。

各地からの報告は一日目にオスプレイ配備地とにもへり基地として工事が進む佐賀から阻止行動を続ける豊島耕一さん、住宅地に進む弾薬庫建設が進む大分から池田年宏さん、ミサイル連隊の司令部ができる湯布院から鯨津憲治さんが報告。二日目にオンラインで自衛隊訓練場を阻止したうるまから照屋寛之さん、軍事基地がなかった八重山諸島に次々に建設、拡大される現状を石垣島から藤井幸子さんが報告、奈良から駆け付けた八木建彦さんは学園都市の真ん中に増設されようとしている京都祝園弾薬庫問題、鹿児島から岩崎わかさんはさつま町で自衛隊を逆に誘致する現状を報告した。

さらに、軍拡にあわせて物資・兵員輸送のために港湾・空港の軍事利用が狙われている。28の空港・港湾が「特定利用空港・港湾」に指定され、さらに





# 6月28日、安和棧橋で何が起きた！？

本部町島ぐるみ会議 原田みき子

辺野古の闘いは25年を越えた。これまで、安和事件の被害者Aさんの手作りパンを食べなかった人はいないだろう。工事が進むにつれ、闘いの現場は塩川の港や安和棧橋にも広がったが、Aさんのパンは全ての現場に届けられた。パンばかりではない。手縫いのブローチもみんなもらった。手許に残っているブローチは、「改憲防止」帽子、「安倍打倒」太鼓、「高江に来てね」パイナップルなど、機知に富んだ物ばかり、多くの人がジャケットや帽子にたくさん飾った。彼女はいつもたくさんプレゼントを持って現れるので、いつからか「パンダクロスさん」と呼ばれるようになった。

6月28日、彼女は仲間3人と安和棧橋の出口で活動していた。ダンプが2台続けて出ようとするので、手を上げて「だめでしょ！」と阻止しようとした。そこへダンプが突っ込んできた。7m以上引きずられダンプは止まった。その時、一緒にいた警備員のBさんは、ヘルメットが飛び、運ばれた病院で死亡が確認された。Aさんは、全身の血の3分の2が内出血で失われ危機的状況だったが、一命はとり止めた。Aさんは小柄で痩せている。「2度もタイヤが身体の上を通過していった」と証言している。直後から意識が完全にあったというから、どんなに痛かったろう。苦しかったろう。会うたびにいつもハグする仲だったので、涙が止まらない。

私は数人の仲間と共に、抗議集会を7回連続して開いた。産経新聞や週刊新潮などが「Aさんが車道に飛び出した」と報じ、さも責任が彼女にあるかのような印象づけが行われ、ネットでも呼応したニュースが流れ始めていた。「真相究明」と「工事中断」を掲げ、安和の現場で集会を重ねるうち、目撃証言が次々に集まった。Aさんがいたのは歩道であり、彼女の飛び出しは無かったこと、ゼネコンが大成建設から大林組に代わって、作業の効率化が図られるようになったこと、警備会社アルソックの警備体制

が、ダンプ優先で歩行者に配慮がなかったこと、ドライバーや会社がAさんに全く謝罪をしてなかったこと（ドライバーは逮捕されていない）、警察が一度もAさんから事情聴取をしていないこと、事故の直後に現場が保存されず洗浄されたこと、警察の現場検証が、事故後1週間も経ってあったことなど、ありえない証言が続いた。見えてきたのは、防衛施設局、大林組、アルソックを中心とする辺野古の工事に関わる一連のグループが、Aさんに責任を押しつけて罪を免れようとする「たくらみ」だった。私たちは、集会のたびに、「被害者を加害者にするな！」と叫んだ。

Aさんは、お姉さんを通して病院からメッセージをくれる。不死鳥の如く蘇って現場に戻ること、危険だからみんな赤い布をつけて欲しいなどなど。早速赤いリボンを首に巻いて安和の現場に立ったら、防衛局の職員が「それは何ですか？」と訊いてきた。「この赤は、被害者が流した血の色よ」と答えた。

(24.9.24)

2024年(令和6年) 9月23日月曜日 沖縄

## 安和現場

# 県に責任転嫁 運搬再開

名護市辺野古の新基地建設を巡る交通死傷事故の発生から55日後の8月22日、沖縄防衛局は中断していた安和棧橋での土砂運搬を再開した。

警備員を増員し、抗議する市民が重傷の助方に進入しないよう歩道をネットフェンスで囲った。

### 防衛局の対応

出入り口にはサイン付きのランプも設置した。「防衛局としてできる対策を最大限取ったので再開した」

同日、県庁を訪れた油縄防衛局の三沢大輔副団長は県にそう伝えた。

事故が起きたダンプカーの出入り口は県が管理する国道4号の号に接する。県は道路の補修も維持管理をする立場だ。そのため7月

9日、防衛局に再発防止策を求める行政指導をした。防衛局からはその後1カ月以上音沙汰がなく、8月15日になって、逆に県に安全対策を求める要請をした。

名護市安和棧橋でネットフェンスを用いて市民の歩行を遮る警備員ら＝8月29日、名護市

## 識者「警備の検証必要」

沖縄タイムス 9月23日

沖縄からの便り

《連載 No.22》  
いちやりば  
ちよーでー

## 代執行 → 大浦湾の「軟弱地盤改良工事」強行は、 **国家犯罪**

ヘリ基地いらぬ二見以北十区の会 浦島悦子



私たち辺野古・大浦湾沿岸  
住民が原告となっている 3  
つの訴訟のうち 2 番目の「知  
事の不承認を支持する住民  
の訴訟」の第 9 回口頭弁論が

9 月 10 日、那覇地裁で行われた。

本訴訟の第 3 回口頭弁論（2023 年 3 月 23 日。  
福渡裕貴裁判長）における私の意見陳述書に前代  
未聞の文言の書き換えが命じられたことはこの連  
載 No.18 で報告したが、当時は法廷での陳述を優先  
して書き換えたものの納得していないこと、昨年  
末の代執行（設計変更不承認を貫く県に替わって  
国が承認）により大浦湾の工事が着工され強行さ  
れ続けている現状の中で再度、今年 4 月に交替し  
た片瀬亮裁判長に訴えたいと思い、私が本訴訟 2  
回目の意見陳述を行った。以下は陳述書の一部で  
ある。

\*\*\*\*\*

……太古の昔から、人々の命と暮らしを支え、  
文化を生み出してきた大切な自然が日々壊され、  
豊穡の海が埋め殺されていくのを毎日見せつけら  
れるのは、我が身を削られるような思いです。

人間活動の活発化によって急速に劣化する地球  
環境への危機感、このまま続ければ人類の生存が  
危うくなるという危機感を世界の国々が共有し、  
1992 年に生物多様性条約が結ばれました。日本政  
府も批准しており、……率先して生物多様性を守  
る義務を負っている国が、それと全く逆に、「奇跡  
の海」と言われるほどの生物多様性を残す辺野古・  
大浦湾を、国民の血税を使って破壊し続けている  
ことを、私は「国家犯罪」だと書きました。……

裁判所に書き換えを命じられたのは、これら「罪」  
という文字が入った 4 か所でした。……私は、行

政権力をカサに着た「犯罪」を、行政権力から独  
立した司法に裁いて欲しいという願いを陳述書に  
込めたつもりでした。……

辺野古新基地建設を巡るその後の経過を見ると、  
代執行までして大浦湾の軟弱地盤に手を付け始め  
た国の工事強行は、どう考えても、やはり「国家  
犯罪」と言う以外に表現が見当たりません。

大浦湾の軟弱地盤と呼ばれている海底は、柔ら  
かい砂泥に抱かれて無数の生き物たちが生息して  
いる命の宝庫であり、大浦湾の生物多様性の底辺  
を支える最も大切な場所です。ここを埋め固める  
ことは、命の大殺戮であるだけでなく、大浦湾全  
体の命の循環を壊滅的に破壊します。また、海水  
の異常高温が続き、大浦湾でもサンゴの白化が広  
範囲に進む中で、最もやってはいけないサンゴの  
移植を強行したのも言語道断です。

軍事基地は戦争のためのものです。戦争がいか  
に無益・無残なものかは、現在も世界中で起きて  
いる戦争が証明しています。そんなものを造るた  
めに、未来の幾世代にも亘って命を育み、恵みを  
与えてくれる海や森、自然を壊すことを、「未来へ  
の犯罪」だと言わずに何というのでしょうか。

裁判官におかれましては、人としての原点に立  
ち、今を生きる人間だけでなく、未来世代や、そ  
の命を支える自然環境にとっての正義を示してく  
ださるよう、心よりお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

他の 2 つの訴訟は、埋立承認撤回を巡る訴訟（高  
裁が 4 人の原告適格が認めるも国が上告）は最高  
裁で審査中、代執行の取消を求める訴訟（今年 2  
月提訴）は、那覇地裁で係争中（9 月 24 日及び 10  
月 9 日に第 2 回口頭弁論）である。（24. 9. 23）



## インフォメーション



### ≪ 各地からのご案内 ≫

★ 10月13日(日)

講演会「あきらめない！  
辺野古新基地を止めるためにできること」

13:30～ 名古屋市教育館3F  
第4・5研修室(東区泉1丁目1-4)  
講師：北上田毅さん(沖縄市民平和連絡会)  
参加費：800円  
主催：あいち沖縄会議

★ 10月14日(月)

辺野古のケーソンをつくらせない。  
三重県民集会

14:00～ アスト津ホール4F  
講演「辺野古新基地建設の現状と課題」  
講師：北上田毅さん(沖縄市民平和連絡会)  
参加費：800円(前売 当日1000円)  
主催：辺野古のケーソンをつくらせない  
三重県民の会 (柴田 090-6807-1089)

### ☆☆ 辺野古土砂全協第二回オンライン学習会のご案内 ☆☆

開催日時：11月16日(土) 18:30～ 参加費・・・1000円

テーマ：急速に軍事要塞化する奄美大島～ 西日本に拡大する戦争準備態勢 ～

報告・・・奄美大島から 城村典文さん(自然と文化を守る奄美会議)  
学習会・・・沖縄から西日本に拡大する軍事態勢 高井弘之さん(ノーモア沖縄戦！えひめの会)  
奄美大島にとっての辺野古新基地建設とは何か 湯浅一郎さん(土砂全協顧問)「  
申込問合せ先：立田卓也 <tateda.dosyazen@gmail.com>

辺野古土砂全協では今後、必ずしも市民の中で共有されていると思われない生物多様性問題、三重で建造される埋め立て用資材「ケーソン」などについて、オンライン学習会を開催する予定です。

### \*\* 編集後記 \*\*

私たち土砂全協は、奄美をはじめ西日本各地からの辺野古埋め立て用土砂の採取に反対することでした。採取地とされた地域の市民・住民がつながって創立されたのです。奄美で土砂採取がまたぞろ表面化してきました。防衛省は奄美大島で採取のための「調査」に入りました。島民には何も知らされないままに。

今こそ「土砂全協の働きどころ」です。世界自然遺産の奄美から大量の土砂を採取し、自然を破壊し、辺野古へ搬入、土砂への外来生物混入の防止策は、防衛省にはありません。奄美からの土砂採取を奄美の皆さんとともに断固阻止していきましょう。(松本)

### ≪辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース つながる力28号≫ 2024年10月10日

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi\_etsuko@yahoo.co.jp  
大谷正穂(山口のこえ) masaho1954@gmail.com

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

HPアドレス…<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>

事務局…〒700-0973 岡山市北区下中野318-114 松本方 TEL・fax 086-243-2927

連絡先…〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 TEL 090-3783-8332

振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会